

研究代表者 所属・職：経済学部 准教授

氏 名：原田 忠直

研究課題名：中国における「農民工第2世代」の都市での定着化とネットワーク形成に関する研究

取り組み状況

本研究では、中国における「農民工第2世代」（改革・開放政策実施当初の1980年代に、都市に出稼ぎのため移動した農村出身者の子弟世代階層）の都市地域での定着過程と中国社会への影響に注目する。これまで、農民工第1世代（第2世代の親の世代階層）は戸籍制度、都市での差別によって、都市で厳しい就業・生活を余儀なくされ、結果として帰郷・幼児保育のための親の呼び寄せなど、出身農村との一定の関係を維持してきた。しかし、申請者らによる調査から、第2世代の多くは、親の出身地との関係は希薄であるが、その分、強かに都市に定着し、生計の術を獲得しつつあり、その実現のために都市において、「包」（請負）などの多様なネットワークを形成しつつあることが判明している。本研究では、この点に注目し、現代の中国都市社会における農村出身者の定着過程と多様なネットワークの形成、それによる都市社会へのインパクトを、江西省鷹潭市、浙江省海寧市の現地調査によって明らかにするものである。

2019年年度における調査では、8月に江西省鷹潭市で、中学・高等学校等で生徒に対し、将来展望などを中心にヒアリング調査を実施した。また、徒弟として働く若年層に対し、学校卒業後（または中退後）から現在に至るまでの経緯についてのヒアリング調査も併せて実施した。さらに12月末から1月上旬にかけて、浙江省海寧市において、民工子弟学校で働く教員に対するアンケート調査、在学生に対して将来展望を中心としたアンケート調査、さらに、卒業生に対する追跡調査を実施した。なお、このような若年に対するヒアリング調査のほか、上記の調査地において、「包」的な経営を営む人びとに対してヒアリング調査を実施し、

「包」を通して形成されているネットワークについての実態調査を行った。

研究成果の内容

本研究に関する2019年度以降の研究成果は、以下の通りである。

①「包」に関する研究成果。

- 1) 原田忠直「中国における農地の「集団所有」と「包」についての一考察（『経済論集』第60号日本福祉大学経済学会2020年3月）。
- 2) 原田忠直「中国における市場の「自由」と「包」についての一考察（『現代と文化』第140号日本福祉大学研究紀要2020年3月）。

②農民工に関する研究成果。

- 1) 原田忠直、川村潤子 『中国21』（愛知大学現代中国学会編2020年9月発行予定）の「三農問題に関する座談会」（2020年3月23日、同志社大学にて実施）。原田・川村以外の参加者。厳善平教授（同志社大学）、堀口正教授（大阪市立大学）、金湛教授（愛知大学）。
- 2) 原田忠直「農民工はかく語りき—日本人研究者が捉えた農民工の実態とは—」『中国21』（愛知大学現代中国学会編2020年9月発行予定）。
- 3) 川村潤子「都市化政策が農民工に与える影響についての一考察—農民工子弟学校の終焉を迎えるにあたって—」（愛知大学現代中国学会編2020年9月発行予定）。

以上3点の原稿は提出済みである、

（川村は、中国経済経営学会2020年春大会（日本福祉大学開催 6月13日）において「都市化政策が農民工に与える影響についての一考察」を発表予定であったが、コロナの影響により中止。その

ため 2020 年秋（富山大学にて開催）に発表は延期
となった。